

# ふるさとの育む人

#28  
「トマト」  




育む人 **佐藤 宗一さん** 雄物川地区 59歳

生産品目: 大玉トマト ハウス10棟、シシリアンルージュ ハウス4棟、  
ほうれんそう(冬期) ハウス10棟、水稲1.5畝

## トマトが赤くなれば医者が青くなる

一口食べればジューシーな旨みが口いっぱいに広がるトマト。古くから、「トマトが赤くなれば医者が青くなる」と言われるほど、栄養をたっぷり含みます。特に、抗酸化作用のあるリコピンを豊富に含み、美肌効果やガン予防効果が期待できるとされています。

JA秋田ふるさと(横手市)トマト部会は生産者数69人。昨年度の出荷量は約529トン、販売額は1億6千7百万円に上り、当JAを代表する品目のひとつです。



## 今年4月の暴風で多くの農家が打撃

今年4月上旬、爆弾低気圧によって発生した暴風やその後の長雨により、横手市では、多くの農家が打撃を受けました。トマト部会では、多くの生産者の定植(苗植え)前の育苗ハウスに被害が及び、平年よりも2週間以上作業に遅れが出ましたが、その後の懸命な復旧努力によって、平年並みとなる6月中旬から出荷を開始。いま、同部会では、天候不順に負けない栽培管理を呼びかけ、長期安定出荷に向け士気を高めています。



## いま、無事に迎えた収穫のとき

今年から同部会の部会長を務め、トマト栽培27年の佐藤宗一さんのハウスでも、この暴風で2棟が倒壊するなど被害が及びました。しかし、「ここで負けてはならない。なんとかして立ち直らせたい」と強い気持ちで復旧。妻の美紀子さんとともに再び種まきを行いながら、生き残った苗を大切に育て、いま無事に収穫のときを迎えています。

## やっとの思いで丹精したトマトを、多くの人に

6月中旬から開始した出荷作業は、10月下旬まで続く長丁場。宗一さんはいま、美紀子さんとともに足しげくハウスに通い早朝と夕方の2度にわたって、果実のひとつひとつを手作業で収穫しています。

「やっとの思いで丹精したトマトを、多くの人に味わってもらい、健康づくりにも役立ててほしい」と笑顔で話す宗一さん。いつもにも増して熱い思いで作り上げたトマトは、今日も私たちの食卓にさわやかな夏の甘みを届けてくれています。



## ■栄養も旨みもたっぷり!「トマトまるごとサラダ」

【材 料】トマト…3個、玉ねぎ(みじん切り)…大さじ2、パセリ(みじん切り)…少々

(A) サラダ油・酢…各100cc、練りからし…小さじ2、おろし玉ねぎ…大さじ2、塩・こしょう…少々、砂糖…小さじ2

【作り方】①トマトをらみりくらいの厚さに切り、皿に盛ったら、玉ねぎのみじん切りとパセリを乗せて冷蔵庫で冷やす

②(A)を合わせ、冷えた①にかけて完成